

2022年度10月入学

東京農工大学大学院工学府

博士後期課程（博士）

学 生 募 集 要 項

東京農工大学大学院工学府

重 要

本要項に記載した情報は令和4年(2022年)5月時点の内容です。

新型コロナウイルス感染症の今後の感染状況の変化等により、緊急の変更が発生する可能性があります。

変更のお知らせは本学ホームページの「入試情報 > 大学院：入試情報 > 重要なお知らせ」に掲載しますので、随時ご確認ください。よろしくお願いいたします。

【本学ホームページ「重要なお知らせ」URL 及び QR コード】

https://www.tuat.ac.jp/admission/nyushi_daigakuin/info/



2022年度10月入学

東京農工大学大学院工学府 博士後期課程 学生募集要項

- ① 工学府は博士前期課程と博士後期課程からなり、この募集要項は後期課程についてのものです。
- ② 共同サステナビリティ研究専攻を志望する者は、共同サステナビリティ研究専攻学生募集要項（別冊）を参照すること。
- ③ 2019年4月入学生より国際専修（英語修了コース）を設置している。国際専修を志願する者は、P9「5. 国際専修」の記載を読むこと。

1. 募集人員

専攻名	募集人員
	2022年 10月入学
生命工学専攻	若干名
応用化学専攻	若干名
機械システム工学専攻	若干名
電子情報工学専攻	若干名
計	若干名

※工学府では2023年4月からの改組と新専攻の設置を計画しており、文部科学省に設置認可申請中ですが、2022年10月入学者は改組後も現専攻の所属となります。2022年10月入学者が修了するまでの間、改組後も現専攻は維持されます。

2. 出願資格

次の各号のいずれかに該当する者とする。

- (1) 修士の学位又は専門職学位を有する者及び入学する月の前までに修士の学位又は専門職学位を取得見込の者。
- (2) 外国において、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び入学する月の前までに取得見込の者。
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び入学する月の前までに取得見込の者。
- (4) 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の教育制度において位置付けられた学校教育施設にあって、文部科学大臣が別に指定するものの当該教育課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者。
- (5) 国際連合大学本部に関する国際連合と日本国との間の協定の実施に伴う特別措置法（昭和51年法律第72号）第1条第2項に規定する1972年12月11日の国際連合総会決議に基づき設立された国際連合大学（以下「国際連合大学」という。）の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者及び入学する月の前までに取得見込の者。
- (6) 外国の学校、出願資格(4)の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し、博士論文研究基礎力審査に相当する審査に合格又は合格見込みで、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者。
(博士論文研究基礎力審査)
 - 1) 専攻分野に関する高度の専門的知識及び能力並びに当該専門科目分野に関連する分野の基礎的素養であって当該前期の課程において修得し、又は涵養すべきものについての試験
 - 2) 博士論文に係る研究を主体的に遂行するために必要な能力であって当該前期の課程において修得すべきものについての審査

（ 文部科学大臣の指定した者とは、「大学を卒業し、又は外国において学校教育における16年の課程を修了した後、大学・研究所等において、2年以上研究に従事した者で、大学院において、当該研究の成果等により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者。」 ）

- (7) 文部科学大臣の指定した者。
- (8) 個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、入学する月の1日現在24歳に達した者。
- *出願資格(7)(8)により出願する者に対しては、出願に先だって事前審査を行う。([出願資格(7)(8)の認定について]参照のこと)

3. 選抜日程等

※出願資格審査申請：2022年6月13日（月）～6月17日（金）
 ※出願資格審査：2022年6月29日（水）
 ※出願資格審査結果通知：2022年7月4日（月）
 出願期間：2022年7月12日（火）～7月15日（金）
 入学試験：2022年8月19日（金）
 合格発表：2022年9月9日（金）
 入学手続き日：2022年9月16日（金）

※出願資格(7)(8)の者のみ対象

4. 出願期間

「3. 選抜日程等」参照（窓口受付時間：8：30～12：00、13：00～17：15 ※土日・祝日は除く）
 郵送にて出願する場合も期日必着とする。

5. 出願手続

出願しようとする者は「6. 選抜方法」の項を参照し、所定の出願書類等を出願期間中に入学試験係まで持参又は郵送すること。

出願書類提出先及び問い合わせ先 東京農工大学小金井地区事務部学生支援室入学試験係
 〒184-8588 東京都小金井市中町2-24-16
 TEL 042-388-7014

6. 選抜方法

選抜は学力試験及び書類審査を総合して行う。

- (1) 出願書類等一覧
- (2) 学力試験

提出された修士論文の概要、研究計画書などを参考にして関連する専門分野についての試験及び語学の試験を行う。（語学の試験は、英語を公用語とする国・地域の大学で学士号・修士号を取得および取得見込みの者を除く。）

出 願 書 類		注 意 事 項
A	入 学 志 願 票 (所定用紙)	「希望する研究題目」を記入するに当たっては、志望する指導教員の指導を必ず受け、「志望する指導教員氏名」欄に承認印を得ておくこと。 なお、本要項(p.9～24)で※1の教員の指導を希望する場合は事前に各教員と相談すること。本要項に記載が無い指導教員名を志望する指導教員氏名欄に記入することはできない。
B	写 真 票 ・ 受 験 票 (所定用紙)	写真票・受験票には、出願以前3カ月以内に撮影した脱帽上半身の写真（縦4cm×横3cm）を貼付すること。

C	修了（見込）証明書	出身大学院が作成した博士前期課程又は修士課程修了（見込）証明書を提出すること。本学府修了（見込）の者も提出すること。出願資格（6）に該当する者は、博士論文研究基礎力審査に相当する審査に係る確認資料を提出すること。ただし、出願資格（7）（8）に該当する者は提出不要。
D	大学院成績証明書	出身大学院が作成したもの。本学府に在学する者も提出すること。ただし、出願資格（7）（8）に該当する者は提出不要。
E	修士論文の概要 （所定用紙）	博士前期課程修了者又は修士課程修了者は、修士論文の内容を日本語で2,000字（英語の場合は500words）以内に要約した概要を提出すること。なお、修士論文に関連した刊行論文等の別刷又はその写しがある場合は添付すること。ただし、博士前期課程又は修士課程に在学中の者及び出願資格（7）（8）に該当する者は提出不要。
F	研究計画の概要 （所定用紙）	博士後期課程における研究計画の概要を、2,000字以内にまとめること。なお、作成に当たっては、必ず志望する指導教員の確認を得ておくこと。
G	志望理由書 （所定用紙）	修士論文題目もしくは現在行っている（行いたい）研究の概略と志望理由を明記したもの。（本学出身者、本学研究生又は本学在学生及び出願資格（7）（8）に該当する者は提出不要。）
H	返信用封筒	郵送による出願者のみ提出すること。 長形3号の封筒に344円分の切手を貼付し、受験票等の送付先住所・氏名及び郵便番号を記載すること。
I	住民票 （外国人志願者のみ提出）	外国人は、住民票の写し（国籍等、在留資格、在留期間及び在留期間の満了の日が記載されたもの）を提出すること。 又、文部科学省国費外国人留学生は、在籍する大学の発行する国費外国人留学生証明書を提出すること。（但し、本学に在籍中の国費留学生は国費外国人留学生証明書の提出は不要）
J	入学検定料 （本学所定の入学検定料払込用紙により払込）	30,000円 本学所定の入学検定料払込用紙により郵便局・ゆうちょ銀行で払込のうえ、受付局日附印を押した「振替払込受付証明書」を受け取り、「入学検定料納付確認票」の所定位置に貼り付けること。なお、「振替払込請求書兼受領証」をもって本学の受領証書とするので、大切に保管のこと。 ※「振替払込受付証明書」の受付局日附印の押印で入学検定料納付を確認するので、入学検定料の納付は郵便局・ゆうちょ銀行の受付窓口での払込に限る。（ATMは使用不可） ただし、本学の学府・研究科から引き続き本課程に進学する者及び入学後の国費奨学金支給延長が決定している外国人留学生は納入不要。
K	受付用シール 連絡受信先シール （所定用紙）	必要事項を記入すること。提出後、住所等の変更があった場合には速やかに小金井地区事務部学生支援室入学試験係まで連絡すること。

7. 試験の期日及び場所

- (1) 期 日：「3. 選抜日程等」参照
- (2) 場 所：東京農工大学小金井キャンパス
なお、試験会場等の詳細については、志願者に別途通知する。

8. 合格発表

合格発表の日時については、「3. 選抜日程等」参照。合格者の受験番号を本学ホームページ上で掲示する。合格者には、同日合格通知書を郵送する。

9. 入学手続

(1) 入学手続期日

期日：「3. 選抜日程等」参照

入学手続の詳細は合格者に別途通知する。

(2) 入学に要する費用等

① 入学料……282,000 円

ただし、本学の学府・研究科から引き続き本課程に進学する者及び入学後も国費外国人留学生となる者は納入不要。

② 授業料……535,800 円（前期分 267,900 円、後期分 267,900 円）

入学後も国費外国人留学生となる者は納入不要。

注）授業料の納入については、入学後の納入とする。

入学料および授業料は 2022 年度現在のものであり、入学手続日までに変更になる場合がある。

また、在学中に授業料改定が行われた場合は、改定時から新授業料が適用される。

③ その他必要書類……入学承諾書（本学所定用紙）

在職のまま入学を希望する者は所属長等による入学承諾書を提出すること。

10. 社会人学生

本課程の標準修業年限は 3 年だが、社会人が学びやすい環境を整備するため、標準修業年限の 2 倍の年数を超えない範囲で、長期にわたり計画的な履修を可能とする長期履修制度が利用できる。

11. 注意事項

(1) 出願するに当たっては、志望する指導教員に連絡し、承認を得ておくこと。

(2) 志願票に志望する指導教員の捺印（承認印）がない場合は、出願できない。

(3) 学力試験の際には、必ず受験票を携帯しておくこと。

(4) 出願手続後における提出書類の内容変更は認めない。

(5) 本要項及び大学から指示する諸事項を守らない場合は、受験できない場合がある。

(6) 入学試験に関する照会は P.2 に記載の「出願書類提出先及び問い合わせ先」で受付ける。

(7) 納入された検定料は、いかなる理由があっても払い戻さない。

(8) 本試験に関する変更等が生じた場合は、直ちに志願者に通知する。

(9) 入学後、本人の申込みに伴い、入学料・授業料免除および奨学金団体の制度によっては、出願時の成績証明書および入学試験の成績を使用することがある。出願時に取得した個人情報に関しては、東京農工大学個人情報の保護に関する規程に則り、適切に取扱う。

(10) 試験当日の交通機関の遅れについては、原則として JR 中央線のみを考慮する。

(11) 試験前日または当日に災害等が発生し、試験の実施に大きな問題が生じた場合は、以下のウェブサイトに対応を掲載する。

（東京農工大学小金井キャンパスWEB 掲示板）

<http://t-board.office.tuat.ac.jp/T/menu.php>

(12) 障害（学校教育法施行令第 22 条の 3 に定める障害の程度）等のある者で、受験上および修学上の配慮を必要とする者は、指導予定教員および入学試験係に出願前のできるだけ早い時期に相談すること。申請内容によっては、試験日までに対応できず、配慮できないこともあるので、なるべく早く申し出ること。

(13) 本学では、「外国為替及び外国貿易法」に基づき、「国立大学法人東京農工大学安全保障輸出管理規程」を定め、学生の受入れに際し厳格な審査を行っている。規制事項に該当する場合には、本学から経済産業省への許可申請が必要となり、すぐに教育が受けられない場合や研究ができない場合がある。また、本学からの許可申請について、経済産業省が国際平和・安全の維持の観点から不許可とした場合、結果的に本学での教育が受けられない場合や研究ができない場合がある。

出願資格(7)(8)の認定について

出願資格の認定とは、博士後期課程への出願資格の有無を判定するためのものであり、下記のとおり実施する。

1. 申請書類受付

受付日……………「3. 選抜日程等」参照

受付時間…………… 8:30～12:00、13:00～17:15 ※土日・祝日は除く

受付場所……………東京農工大学小金井地区事務部学生支援室入学試験係（小金井キャンパス管理棟1階）

2. 提出書類等

- (1) 出願資格認定申請書（所定用紙）
- (2) 最終出身学校の卒業証明書（出身学校が作成したもの）
- (3) 最終出身学校の成績証明書（出身学校が作成したもの）
- (4) 研究業績一覧（所定用紙）及び刊行論文等の別刷又はその写し
- (5) 在職（在籍）証明書〔様式随意（出願資格(7)(8)の者で、勤務経歴のない者については提出を要しない。）〕
- (6) 志望理由書（所定用紙）

3. 認定試問

認定試問日については「3. 選抜日程等」参照。集合場所、時刻等については出願資格認定の申請手続きの際に連絡する。

4. 認定結果

出願資格審査結果通知日については「3. 選抜日程等」参照（郵送にて通知）

5. 出願手続き

出願資格の認定を受けた者は、2, 3ページの4, 5, 6の項により出願手続きを行うこと。

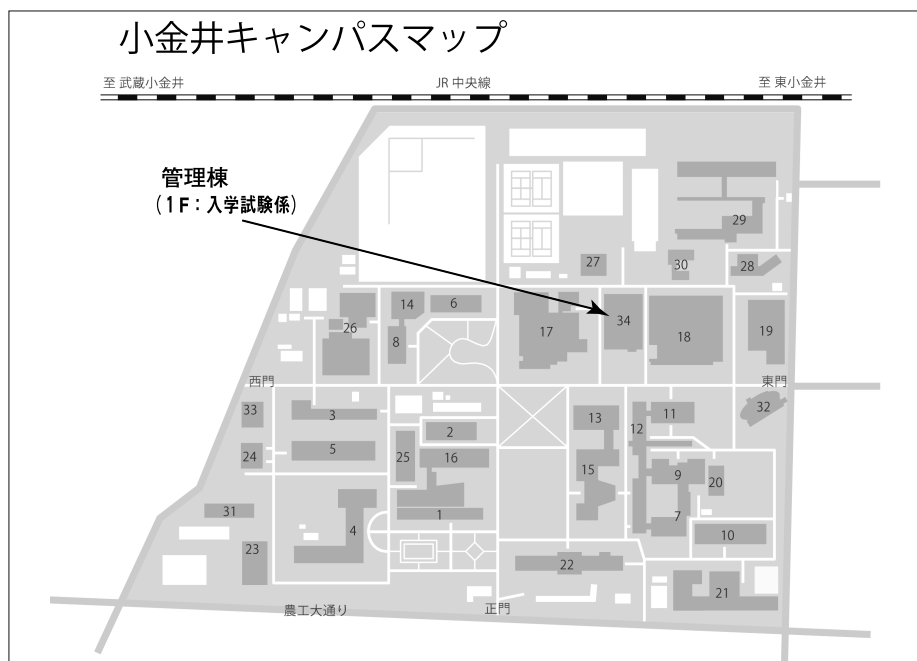
所在地

工学府

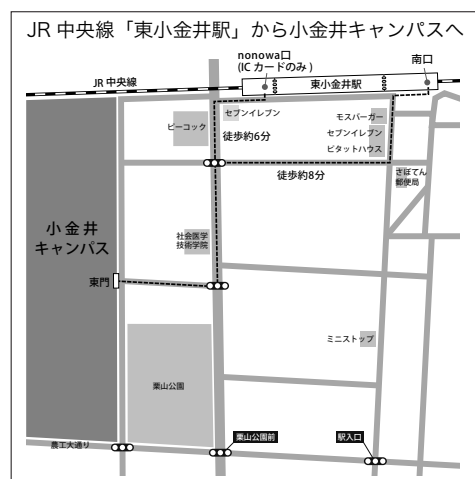
〒184-8588 東京都小金井市中町 2-24-16

☎ 042-388-7014

東京農工大学大学院工学府案内図



1 1号館 (応用化学科・化学物理工学科)	10 10号館 (生命工学科・知能情報システム工学科)	19 工学部総合会館	31 小金井第2宿舍(職員宿舍)
2 2号館 (機械システム工学科)	11 11号館 (生命工学科)	20 CAD/CAM実習施設	32 140周年記念会館(エリプス)
3 3号館 (知能情報システム工学科)	12 12号館 (生命工学科・応用化学科・知能情報システム工学科)	21 先端産学連携研究推進センター (VBL棟・共同研究施設・インキュベーション施設)	33 次世代キャンパス研究センター
4 4号館 (生体医用システム工学科・応用化学科・化学物理工学科)	13 13号館 (グローバル教育院小金井オフィス)	22 科学博物館	34 管理棟 (愛称: CUBE) (工学部事務部)
5 5号館 (生体医用システム工学科・知能情報システム工学科・機器分析施設・産業技術専攻)	14 14号館 (機械システム工学科・生命工学科・産業技術専攻)	23 先端科学実験棟	
6 6号館 (知能情報システム工学科)	15 工学部講義棟	24 環境管理施設	
7 7号館 (知能情報システム工学科)	16 新1号館 (生体医用システム工学科・応用化学科・知能情報システム工学科)	25 ものづくり創造工学センター	
8 8号館 (総合情報メディアセンター)	17 小金井図書館	26 体育館・武道場	
9 9号館 (機械システム工学科)	18 BASE本館 (大学院生物システム応用科学府 (BASE))	27 工学部R実験研究棟	
		28 小金井国際交流会館	
		29 榊寮(男子寮)	
		30 桜寮(女子寮)	



◎交通機関

小金井キャンパス

JR 中央線 東小金井駅 (新宿から約 22 分)

nonowa 口から徒歩約 6 分

南口から徒歩約 8 分

武蔵小金井駅 (立川から約 13 分) から徒歩約 20 分

東京農工大学大学院工学府

東京農工大学大学院工学府博士後期課程案内

1. 学びの目的

工学府は、自然環境と科学技術に関心を持ち、常に自己を啓発し、広い知識と視野を持ち、高い自主性と倫理性に支えられた実行力を有し、国際社会で活躍できる技術者・研究者を目指す学生を国内外から広く受け入れる。最近の科学技術の発展は目覚ましいものがあり、技術・情報が高度化、先端化すると同時に種々の専門分野に関連する境界領域や総合領域における発展も著しい。工学府は、このような時代の要請に対応する科学と工学の基礎学問から先端応用技術に至る広範囲の研究教育を教授し、幅広い学識と高度の研究能力を有する独創性豊かな学術研究者、専門技術者を養成することを目的と特色としている。

2. アドミッションポリシー

教育研究の目的、および人材養成の目的をふまえ、工学府は、以下のような人材を求める。

- ①幅広い視野と専攻分野を学ぶための十分な基礎学力をあわせもち、高い倫理性を身につけた者。
- ②大自然の真理に対する探求心とモノ作りマインドを持ち、理工学分野の科学技術に関心があり、研究を通じて主体的に考え、他人と協力・協働して、研究課題の解決や社会の発展に貢献する意識の高い者。
- ③人類が直面している諸課題に対し、多面的に考察・判断して研究課題を自ら設定することができ、その課題に果敢に挑戦する意欲のある者。
- ④日本語、外国語を問わず、高いコミュニケーション能力を有する者。

生命工学専攻

国際性、コミュニケーション能力、国内外の学会発表や論文発表ができる能力を身につけさせ、最先端の生命工学の専門家として、現代社会のニーズに即応して活動でき、新たなニーズの発掘とシーズの発見能力に富んだ、研究者・専門家・職業人として社会の中核で活躍できる人材の養成を目的とする。よって、次のような人材を求める。

- ①生命工学分野の研究に関心があり、それらの分野での活動を通じて社会的・国際的に貢献したいという意欲を持つ者。
- ②生命工学分野の十分な基礎知識と問題発見解決能力を有し、新しい研究領域に果敢に挑戦する意欲のある者。

応用化学専攻（精密分子化学専修）

化学者として先導的役割を果たす高度専門的研究指導能力を有し、資源・エネルギー・素材/材料・地球環境に関連する諸問題を解決し、基礎・応用研究の発展や持続型社会の形成に寄与する人材の養成を目的とする。よって、次のような人材を求める。

- ①原子・分子に立脚した化学の視点から新しい価値を創出し、社会的・国際的に貢献したいという意欲と創造性を持つ者。
- ②化学や関連技術分野の十分な基礎知識と問題発見解決能力を有し、未踏の学理の追究や原理の解明、新しい研究領域の開拓に果敢に挑戦する意欲と積極性を有する者。

応用化学専攻（有機材料化学専修）

有機・高分子物質を中心に、無機物質や金属との複合体も含めた広義の有機材料化学に関する高度専門的な科学展開・技術開発の指導的立場を担える人材の養成を目的とし、それを通して世界全体の安心な生活の実現に寄与することを目指す。よって、次のような人材を求める。

- ①有機・高分子物質について、その化学、物理的性質、応用・利用に関心があり、その周辺領域や複合領域も含め、この分野の専門家として社会に貢献する意欲を持つ者。
- ②化学あるいは物理分野の十分な基礎学力を有し、研究活動を通して物質科学的洞察力と課題発見・解決策策定能力を専門的指導者に求められる水準まで高めようとする者。

応用化学専攻（システム化学工学専修）

持続型社会の形成に貢献するべく、エネルギー・地球環境・医薬/食品・素材/材料に関連する化学・技術の諸問題を解決し、先導的役割を果たす高度専門的指導能力を有し、その成果をもって社会的・国際的に活躍できるケミカルエンジニアの養成を目的とする。よって、次のような人材を求める。

- ①エネルギー・地球環境・医薬/食品・素材/材料に関連する化学・技術分野の研究に関心があり、それらの分野での活動を通じて社会的・国際的に貢献したいという意欲を持つ者。
- ②化学・技術分野の十分な基礎知識と問題発見解決能力を有し、新しい研究領域に果敢に挑戦する意欲のある者。

機械システム工学専攻

物理・数学の高い基盤的解析能力と機械工学の幅広く深い専門知識に基づいて、環境と調和して持続発展可能な科学技術立脚社会をグローバルスケールで実現するためのUnique & Bestな先端的機械システムを設計・創造し、世界の社会・文化に関する深い理解・洞察と豊かなコミュニケーション能力で国際的に活躍できる高度な技術者・研究者を養成することを目的とする。このために、次のような人材を求める。

- ①機械工学ならびに先端機械システムの最先端の研究に取り組む高い学問的応用能力があり、専門分野での国際的活動を通じて人類・社会に貢献したいという強い意志を持つ者。
- ②物理・数学ならびに機械工学分野において高度な解析能力・専門知識・洞察力に基づいて問題を発見・解決する能力を有するとともに、新しい研究領域や融合的領域における研究課題に果敢に挑戦する意欲にあふれた者。

電子情報工学専攻（物理応用工学専修）

最先端の物理学・物理工学における先導的な学識を教授し、また自立した研究者に相応しい課題発掘能力、実践的研究能力、技術開発の展開能力、国際性と情報発信能力、社会的ニーズに対する柔軟性などを涵養して、当該分野や分野横断的な未知の課題の解決に対応し得る人材の養成を目的とする。以上から、本専攻・本専修では次のような人材を求める。

- ①物理分野の研究に関心があり、それらの分野での活動を通じて社会的・国際的に貢献したいという意欲を持つ者。
- ②物理分野の十分な基礎知識と問題発見解決能力を有し、新しい研究領域に果敢に挑戦する意欲のある者。

電子情報工学専攻（電子応用工学専修）

現代社会の根幹を支える電気電子工学の先端技術及び関連する専門知識を修得させるとともに、各専門分野での研究活動や産業界との連携を通じて、社会的ニーズに基づいた実践的な研究開発能力を有する、電気電子工学技術の発展に寄与する人材の養成を目的とする。よって、次のような人材を求める。

- ①電気電子工学の分野の研究に関心があり、それらの分野での活動を通じて社会的・国際的に貢献したいという意欲を持つ者。
- ②電気電子工学に関する十分な基礎知識と問題発見解決能力を有し、新しい研究領域に果敢に挑戦する意欲のある者。

電子情報工学専攻（知能・情報工学専修）

情報工学の分野の先導的な学識を教授し、また自立した研究者に相応しい課題発掘能力、実践的研究能力、技術開発の展開能力、国際性と情報発信能力、社会的ニーズに対する柔軟性などを滋養して、当該分野や分野横断的な未知の課題の解決に対応し得る人材の養成を目指すものとする。よって、次のような人材を求める。

- ①情報工学の分野の研究に関心があり、それらの分野での活動を通じて社会的・国際的に貢献したいという意欲を持つ者。
- ②情報工学に関する十分な基礎知識と問題発見解決能力を有し、新しい研究領域に果敢に挑戦する意欲のある者。

3. 主な教育研究上の特色

- ①学術領域の教育研究分野に対応するため、学問の普遍的体系に基づいた大専攻による強力な指導体制で教育研究を行う。博士論文の研究指導は学際領域の研究にも対応できるように、複数指導体制をとる。
- ②従来の高度であるが非常に狭い専門的教育研究による弊害を除去するため、博士論文のテーマと異なる研究テーマについて文献調査研究を行わせ、幅広い知識を修得させ、また柔軟な思考力を育成する。
- ③授業では、各教員が実際に研究を行っている分野についての内容を中心として教授する。
- ④修士の学位を有する社会人だけでなく、学部卒業後2年以上の社会人も積極的に受け入れる。

4. 所属教員の主な研究内容

※1の教員については、2ページの「6. 選抜方法（1）出願書類等一覧 A入学志願票」欄を参照のこと。

5. 国際専修

2019年4月入学生より各専攻に国際専修（英語修了コース）を設置している。国際専修への入学者は講義等が全て英語となる。本募集要項P9～P22に記載の全教員は国際専修に所属している。各専攻における国際専修の募集人員は若干名でP1「1. 募集人員」の内に含まれる。出願資格、選抜日程、出願期間、出願手続、選抜方法、合格発表、入学手続、注意事項等は本募集要項P1～4と同様となる。

生命工学専攻

主要教育研究分野	担当教員名	研究内容
生体機能工学専修 細胞機能工学	斉藤 美佳子	幹細胞工学、単一細胞機能の分子制御（遺伝子、サイトカイン、エクソソームなど）、複合疾患モデルの創製（糖尿病予備群モデルマウス、がん転移モデル細胞など）、複合疾患の発症機構解析、疾患予防の細胞医薬の開発、レギュラトリーサイエンス、実験動物健康モニタリング、に関する研究を行う。
	モリ テツシ	新規・未同定環境微生物の有効利用および生態・役割・遺伝的バックグラウンドの理解を目指し、分子生物的手法を基盤とした技術開発研究を行う。
生命分子情報科学	黒田 裕	種々分光学的手法、NMR、計算機シミュレーション及び蛋白質工学的な手法を融合的に用いて、蛋白質の構造、物性、機能、凝集性を制御する技術を開発し、蛋白質が引き起こす免疫応答や細胞毒性の解明や創薬への応用を目指す。
	※1 津川 裕司	当研究室では、植物とヒトとの繋がりを紐解くオミクス解析の技術開発を通じて、自然界で創生される100万種を超える化合物が、ヒトおよび腸内細菌叢でどのように代謝され、どのような生体分子に作用し、我々の生体恒常性維持に寄与しているかを解明する研究を行います。
生体分子構造学	中澤 靖元	シルクフィブロイン等の天然高分子を用いた新規な組織工学材料を創製する。天然高分子の機能化および高次構造制御による微細構造-物性-機能性の相関関係を明確化するとともに、医工連携により、組織再生型の心臓修復用パッチや動脈グラフト、創傷被覆材、心臓弁、軟骨等の次世代医療機器への応用を図る。

主要教育研究分野	担当教員名	研究内容
細胞分子工学	稲田全規 (協力教員) ※共同大学院で受け入れ	遺伝子改変技術を駆使した分子細胞生物学的なアプローチにより、コラーゲンの産生と分解に関連する多彩な生体現象を解析する。特に遺伝子欠損マウスを用い、関連疾患の発症機構を病態生化学的に解明する。
	太田善浩	ミトコンドリアが関与する生命現象(プログラム細胞死、活性酸素発生、エネルギー代謝など)の理解、及びミトコンドリアに関連する創薬の推進を目指し、イメージングを中心とした計測技術の開発及びメカニズムの解明を行う。
	※1 平田美智子	遺伝子編集技術を用いた遺伝子欠損動物の作製とその表現型解析による遺伝子機能の生化学的解析を行なう。特に創薬における実験評価系の構築や画像診断技術の開発に資する研究開発を行う。
ナノ生命工学	池袋一典	蛋白質や核酸を素材とし、進化工学的手法を応用した新規分子認識素子の設計・合成、それらを応用した新規分子検出システムの開発を行う。
	川野竜司	半導体微細加工(MEMS)技術、マイクロ流体技術を用いた人工細胞膜中に膜タンパク質・膜受容体を埋め込んだチップを作製し、創薬・生体模倣型バイオセンサの研究を行う。またチャネル膜タンパク質の持つナノ孔を利用し、高感度一分子検出システムを構築する。
バイオビジネス	津川若子	次世代の医療用検体検査技術のプラットフォーム開発、環境計測・化成品計測用バイオセンシング技術の開発など、新規生命分子・システムを応用したバイオデバイスの開発を進める。
分子生命化学	浅野竜太郎	次世代型のタンパク質製剤の開発、およびバイオセンサーへの展開を目指して、抗体を中心とする免疫分子に基づく人工タンパク質のデザインと精密機能解析を進める。
応用生物工学専修 海洋生命工学	吉野知子	微生物を利用した新規バイオマテリアルの開発、特に分子生物学、タンパク質科学、遺伝子工学を基盤とした高機能性バイオマテリアルの創製とそれらを用いたバイオセンサの開発を行う。
生命分子工学	新垣篤史	分子生物学的な手法を用いてバイオミネラル化の機構を解析し、無機物と有機物から構成される新しい物性を持ったナノバイオマテリアルの開発を行う。
	田中剛 (協力教員) ※共同大学院で受け入れ	マリナルカルチャーコレクションの構築及びそれを利用したバイオ燃料・医薬品原料などの有用物質生産に関する研究／機械学習やバイオイメージインフォマティクスに基づく病原性微生物検出、医療診断技術開発に関する研究を行う。
	中村暢文	バイオプロセスに有用なタンパク質の探索と改良、それらのタンパク質を利用した生体システム模倣プロセス、バイオエレクトロニックデバイスの開発を行う。また、イオン液体を用いた発電・蓄電デバイスの開発を行う。
生体電子工学	一川尚広	脂質分子は自己組織的に二分子レイヤーを形成し、様々な生体機能物質の場として機能する。当研究室では、このような両親媒性分子の自己組織化を制御し、様々な周期構造を有する分子集合場を生み出し、これまでにない物質機能場の創成を目指しています。

主要教育研究分野	担当教員名	研究内容
生命有機化学	長澤和夫	創薬リードとなる生理活性天然物の全合成、核酸高次構造の安定化を基盤とする創薬研究、グアニジン型有機触媒に関する研究を行う。
	桜井香里	ペプチド、糖鎖や天然物生理活性分子をモチーフとした新規機能性分子を創製する方法論を、有機化学とバイオテクノロジーを組み合わせで開発する。さらに得られる機能性分子をツールとして、生命機構を解明するケミカルバイオロジー研究を行う。
	寺正行 ^{※1}	生体高分子（核酸、タンパク質、細胞表層分子）を認識し、化学的な制御を可能とする低分子化合物の設計と合成を行う。これを用いて、これまでにない方法で生体分子や細胞に対する制御技術を開発する。さらに、本技術を基盤とした抗ウイルス薬や抗がん剤の探索研究を行う。
バイオソサエティ工学講座 生命環境工学	養王田正文 *2025.3退職予定	細胞内における蛋白質の一生を司る分子シャペロンの分子構造から機能の解明、バイオレメディエーションによる環境修復に関する微生物とその検出技術の開発、オーダーメイド医療を目指した遺伝子解析技術の開発、蛋白質の高次構造の解析とコンピューターによる動的構造変化の解明を行う。
	篠原恭介	私達のからだの中で医学的に重要な役割を持つ繊毛細胞の構造や遺伝子の働きを、実験動物・電子顕微鏡・蛋白の解析などにより調べています。
生物言語学	畠山雄二 ^{※1}	理論言語学、統語構造、情報構造。

※ 本学府では、企業の研究者などの社会人に最先端の研究に関する教育の機会を与え、同時に産学共同研究を推進することを目的として、社会人ブラッシュアップコース（バイオソサエティ工学講座）を生命工学専攻に平成14年度より設置している。定員は博士前期課程4名、博士後期課程4名で各企業の業務を続けながら、修士及び博士の学位を取得することができるようになっている。

応用化学専攻

主要教育研究分野	担当教員名	研究内容
精密分子化学専修		
光電子材料化学	熊谷義直	化合物半導体結晶の気相成長を熱力学解析とそれに基づいた装置構築、成長実験、物性評価の循環により進める。
	村上尚	半導体エピタキシャル成長とその構造および光学的物性評価に関する研究。新規原料分子探索による結晶成長技術を開拓する。
電子エネルギー化学	直井勝彦 *2023.3退職予定	環境とエネルギーの調和を目指したナノレベル新規材料設計。ヘテロエネルギー界面のナノファブリケーションと電子・イオンフローの制御。スーパーキャパシタ、全固体型ポリマー二次電池の開発。エコ電気自動車、モバイル用の次世代エネルギーデバイスの開発。
	岩間悦郎	高速蓄電デバイスへの展開を目的としたナノ材料研究。ナノ粒子の結晶構造・欠陥・複合形態制御を組み合わせた新規ナノ複合材料の設計開発とその評価技術構築。蓄電エネルギーと海水資源双方の高効率回収。
分子変換化学	加納太一	有機化学的手法を用いた生物学的等価体の効率的合成法の開発と生物活性物質合成への応用。人工酵素を目指した有機分子触媒の創製と環境調和型の新規反応への応用。
分子設計化学	山崎孝 *2023.3退職予定	含フッ素化合物の立体選択的合成方法の開発。フッ素原子や含フッ素アルキル基の特長を利用した、新規合成反応経路の構築ならびに各種有用物質の創製。
	齊藤亜紀夫	Lewis酸あるいは超原子価ヨウ素を用いる効率的な新規有機合成反応の開発（連続的結合形成反応、多成分連結型反応などを中心）とその応用（生理活性物質や機能性材料などの合成）
分子触媒化学	平野雅文	遷移金属錯体上での結合の切断と形成の完全理解とその応用開拓。特に炭素-水素、炭素-酸素結合などの不活性な結合の新しい切断反応の開発、および分子間交差カップリング反応を中心とした原子利用効率の高い化学、位置およびエナンチオ選択的結合形成反応の開発。
	森啓二	多重炭素-水素結合変換反応を駆使する多環式骨格構築法の開発。エナンチオ選択的炭素-水素結合変換型環化反応の開発。 $\pi-\pi$ 相互作用の利用による新規配位子の創成とそれを用いた不斉反応の開発。
無機固体化学 (セラミックス)	前田和之	ゼオライト類縁物質や配位高分子等の新規ナノスペース材料の開発、構造解析、応用に関する研究。無機有機ハイブリッドナノシートの創製とナノスペース材料への展開。
キャパシタテクノロジー (寄附講座)	玉光賢次 ※1	キャパシタ、リチウムイオン電池、ソフトエネルギーデバイスを対象とした、材料化学、機能設計、デバイス設計。さまざまな分野への応用展開。

主要教育研究分野	担当教員名	研究内容
有機材料化学専修 有機・高分子光電子材料	下村 武 史	フレキシブルな分子エレクトロニクス実現をめざした機能性高分子材料の研究：①導電性高分子ナノファイバーなどのナノ構造体の創製と分子スケールでの機能評価、②低次元性や柔軟性を利用したポリマーエネルギーデバイスの開発と機能評価、③自己組織性をもったソフトデバイスの開発と機能評価。
	中野 幸 司	有機合成化学を基盤とする有機機能性材料の創製。特に、①新しい π 共役化合物の設計・合成、および有機エレクトロニクス材料・有機オプトエレクトロニクス材料としての機能評価と応用、②高活性・高選択性の発現を目指した新規重合触媒の開発、およびその触媒をもちいた機能性高分子材料の開発。
バイオ高分子材料	村上 義 彦	医用高分子材料（バイオマテリアル）や機能性有機材料の開発。特に、次世代医療のための外科手術用組織接着材料、血管内手術用ゲル、薬物放出性マトリックス、遺伝子診断用ポリマー、がん特異的イメージング剤、バイオ分析用高分子膜などの開発。
	村岡 貴 博	有機合成化学と超分子科学に基づいた、生体に関連した機能性有機分子の開発と応用。特に、①タンパク質を安定化・機能操作する分子の開発、②細胞膜などの脂質二分子膜の構造・物性を制御する分子の開発、③細胞活動を操作する分子の開発。
有機・高分子物理化学	渡邊 敏 行	①二酸化炭素を原料とするナノダイヤモンド、②光照射により繊毛運動やぜん動運動・拍動するポリマー材料、③外部刺激により蛍光のOn-Offを自在に制御できる有機材料、④ドラッグデリバリーシステムや再生医療に有用な高分子材料等の機能性材料を開発する。
	尾崎 弘 行 * 2024.3 退職予定	有機低・高分子とその集合体の電子構造の解析。固体清浄表面上の極薄膜（厚さ 4 Å の単分子層～数分子層）における分子の凝集構造と挙動のその場観察。単分子層反応を利用する極薄ポリマー単一層（有機単原子層）の創成・評価・マニピュレーション。
有機・高分子素材化学	※1 岡本 昭 子	分子の空間的構造の精密な把握に基づく有機構造材料の開発：芳香環が非共平面的に集積して構築される分子性化合物の、①結晶中での分子構造（一分子を取り出したときの分子内の原子の空間配置）と集合体の空間配置、溶液中での分子構造の変化挙動の解析、②モノマーへの変換と縮合系ポリマーへの組み込みに関する合成研究。
超分子・分子集積材料	白井 博 明 * 2023.3 退職予定	有機材料の新規な薄膜・界面形成プロセスと機能発現の探求、および有機発光素子などのエレクトロニクスデバイスへの応用。特に物理蒸着などのドライプロセスを用いたポリマー材料のその場合合成手法の開拓と、無溶媒・環境適合型高分子薄膜技術の研究。
	※1 帯刀 陽 子	エレクトロニクスデバイス作製のための新規機能性有機材料の開発。①特異な電気・磁気特性を発現する機能性材料の合成、②機能性材料からなる分子集合体の作製、③電気・磁気物性などの有機電子デバイス特性の評価。

主要教育研究分野	担当教員名	研究内容
有機材料数理 有機・高分子材料開発 材料健康科学 (寄附講座)	兼橋 真二 ※1	持続可能社会の実現に貢献する新規な環境機能材料の創製。高分子科学、物質移動、環境科学に立脚した未利用バイオマス由来の機能性マテリアル、温室効果ガス回収、クリーンエネルギー水素精製、天然ガス・バイオガス濃縮用の分離膜素材、フードロス対策となるガスバリア材料およびそのハイブリッド材料に関する研究。
	合田 洋 ※1	デーン手術、ヘガード分解、葉層構造、接触構造などの幾何学的手法を用いる三次元多様体およびその中の結び目の解明。
	畠中 英里 ※1	低次元トポロジーにおける手法を用いた結び目、曲面結び目および3次元多様体の分類の研究。
	齋藤 拓	ポリマーブレンド法による有機材料の高次構造制御と高性能材料設計。超臨界流体を利用した複合材料や微多孔膜の創製とグリーンケミストリー。応力・複屈折同時測定法による光学物性の評価や新規光学材料の設計。結晶化や分子運動など、高分子物性の基礎科学。
システム化学工学専修 プロセスシステム工学 反応工学 異相界面工学 化学エネルギー工学	山下 善之 *2025.3退職予定	安全・安心かつ効率的なプラントの運転操作をめざした高信頼性運転制御系の設計および実現手法の開発。データリッチ環境におけるプラントの知的運転支援システムの構築手法に関する研究。プロセスシステムの高度シミュレーションと最適化に関する研究。化学プラントのスマート化に関する研究。
	金 尚弘 ※1	プロセスデータ解析、プロセスモデリング、プロセス制御などの技術開発および応用を行っている。化学、半導体、医薬品など幅広いプロセスを対象として、異常検出、歩留まり改善、制御性能改善などを実現することを目的としている。
	伏見 千尋	炭素系資源の熱分解・ガス化・水熱液化反応器の研究開発。再生可能エネルギーを組込んだ火力発電とバイオマス発電の高付加価値化。バイオマスからの化学品生産プロセスの開発。流動層装置の流動と反応解析。
	桜井 誠	マイクロ化学プロセスへの応用に向けた構造体触媒の高機能化、環境分野へのファインバブルプロセスの応用、化学プロセスの高効率化に向けた非定常操作、熱化学サイクルによる新規高効率エネルギー変換プロセスの設計等、新しい反応場や反応プロセスの創出や設計に関する研究。
	滝山 博志	医薬品、食品などで多用されている結晶性物質を生産するための手法、すなわち晶析操作に関する研究開発。結晶形態、結晶多形、結晶粒径などがより高度に制御された医薬品結晶、より高性能な機能性結晶を対象として、その製造手法を研究する。また電池材料の前駆体結晶など、エネルギー関連物質なども研究対象としている。
	Wuled Lenggoro	化学プロセス工学、微粒子・エアロゾル工学、移動現象論（質量・流体・熱）およびバイオシステムの異分野横断研究を推進し、食料生産や水供給システム、生態系保護に貢献する。「ミクロ」から地球環境を含む「マクロ」な物質・エネルギー移動まで考える。

主要教育研究分野	担当教員名	研究内容
環境バイオエンジニアリング	寺 田 昭 彦	自然環境中の有用な微生物群を制御・活用した水・土壌環境の浄化に関する研究、および微生物の高度集合体であるバイオフィルムの制御・抑制に関する研究。具体的には、難生分解性有機化合物・窒素・リン除去を志向したバイオリクターシステムの開発、ファウリングを抑制するろ過膜や抗菌材料の開発など。
	利 谷 翔 平 ^{※1}	未利用廃棄物の再生可能エネルギー、肥料・土壌改良材などへの変換に関する研究を行う。具体的には湿式・乾式メタン発酵による下水汚泥や農畜産廃棄物の処理やその残渣の利用に関する研究。廃棄物由来肥料を投入した土壌における温室効果ガス生成・栄養塩挙動の解明や削減法に関する研究など。
物質分離工学	徳 山 英 昭	機能性高分子材料の開発と材料の製造プロセスおよび材料を利用する工業・環境・医薬プロセスに関する研究。具体的には、分離材、生体触媒固定化担体、薬物徐放材料などの開発、および微粒子や多孔質など構造制御技術の構築。
	大 橋 秀 伯 ^{※1}	近年の機能分子産生デバイスや省エネ技術のためには、分子移動現象にかかわる知見が欠かせない。機能性分子の移動物性取得・解析手法の開発を通じて、リチウムイオン電池用材料の開発、タンパク質の連続リフォールディング技術、化学的グラフト手法など、エネルギー分野・ライフサイエンス分野の先進技術開発に取り組む。

機械システム工学専攻

主要教育研究分野	担当教員名	研究内 容
機械物理工学専修 流 体 力 学	亀 田 正 治	混相流体力学及び高速流体力学。特に気泡を含む流体の流動解析、高速飛行体周りの流動解析。流れの可視化、計測法、数値シミュレーション。
	田 川 義 之	マイクロ流体力学。特に混相流体現象を利用した超音速マイクロジェットについての実験的研究。医療器械、マイクロデバイスへの応用。液滴のダイナミクス。
機 械 材 料 学	小 笠 原 俊 夫	航空機、宇宙輸送システム、自動車、ロボットなどへの適用を目指した先進複合材料および複合材構造に対する実験的・解析的研究。炭素繊維複合材料、カーボンナノチューブ複合材料、セラミック系超耐熱複合材料などの材料開発。複合材料の破壊・損傷の評価。力学的・熱的モデルの構築と数値解析。
	山 中 晃 徳	フェーズフィールド法を基幹技術とした金属材料のミクロ組織形成と弾塑性変形挙動のマルチスケールシミュレーションおよび実験的研究。
材 料 力 学	※1 高 田 智 史	粉体物理学および粉体工学。特に粒子シミュレーションや連続体モデリングなどを用いた粉粒体の外力応答の解析。
弾 塑 性 解 析	桑 原 利 彦 * 2025.3 退職予定	金属材料の成形加工シミュレーションと実験解析、新しい材料試験法の開発と弾塑性変形挙動の数値モデリング。塑性加工機械の知能化。
	中 本 圭 一	多軸制御工作機械や複合加工機のためのCAM 開発（工程設計・工具経路生成）、次世代工作機械の自律化・知能化技術、超精密マイクロ・ナノ切削による金型加工、技能やノウハウのデジタル化による柔軟物・超複雑形状の巧妙加工、アナログモデルを迅速に再現するリバースエンジニアリング。
機 械 要 素 解 析	安 藤 泰 久	マイクロトライボロジー。フォトリソグラフィーや機械加工、ビーム加工などを利用した MEMS や機能性表面の開発。計測技術、摩擦制御技術などへの応用。
システム設計工学専修 機 械 シ ス テ ム 設 計	※1 鎌 田 崇 義	アクティブ振動制御、スマート構造、ヘルスマニタリング、耐震技術、免震・制振、車両応答解析、エレベータ技術。
	水 内 郁 夫	ロボティクス、メカトロニクス、ヒューマノイド、筋骨格型ヒューマノイド構成法、生活支援ロボット、知能機械構成法、自律システム、ロボットアーキテクチャ、ロボットデザイン、ロボット制御、ロボット基盤ソフトウェアなど。
熱流体システム設計	村 田 章	ガスタービン関連熱・流体問題。乱流熱伝達の数値シミュレーション、流れの可視化、相変化を利用した熱輸送デバイス。

主要教育研究分野	担当教員名	研究内容
車両システム工学	岩 本 薫	省エネルギー・環境負荷軽減を目的として、熱・流体の高度制御技術を創成する。自在な乱流制御（航空機などの摩擦抵抗低減）、材料工学における制御（高品質結晶生成プロセスにおける対流制御）、生体工学における制御（人工心臓などの脈動最適化）、化学工学における制御（化石燃料に依存しない水素の高効率製造）など。
	※1 堀 琢 磨	伝熱工学に関する研究。具体的には、エネルギーデバイスにおける熱・物質輸送、ナノ材料の熱伝導、構造最適化、粗子化・マルチスケールシミュレーション、界面および分子スケールの熱流体力学など。
	毛 利 宏 *2024.3 退職予定	車載機器を使った環境認識、状態推定、運動制御技術の研究。レーザレンジファインダ、カメラ、衛星などを用いた周囲環境認識、自己位置推定技術開発、自動運転などへの応用。車両ダイナミクスと制御理論に基づいた運動制御技術開発、ドライブレコーダデータをベースとする運転時のヒューマンエラーの発生要因分析など。
	ボンサトーン・ ラクシンチャ ラーンサク	安全安心な自動車交通システムのための人・車・道路の統合センシングとアクティブ制御技術を中心とした研究開発。個人移動手段パーソナルモビリティ、自動車の運動性能向上技術、ドライバモデルと運転行動予測、ナビゲーション・マシンビジョン等を利用した先進運転支援システム。
	前 田 孝 雄	宇宙探査ロボティクス・メカトロニクスに関する研究を実施。月や火星、小惑星で活動する探査ロボット（ローバ）に必要な技術に関して、走行力学、自律機能や、探査システムの面で研究している。探査システムの要素から、システム全体に及ぶ範囲を対象としている。また、探査計画の立案も行う。ハードウェアを用いた実験とシミュレーションとを相補的に用いて、将来の宇宙探査技術の創出と、それらの応用技術の普及を目指す。
メカノビジネス	夏 恒 *2025.3 退職予定	電解加工、放電加工、砥粒加工等による形状創成に関する環境対応型生産加工の研究開発。電解加工における現象解明と応用技術、加工シミュレーション技術の研究開発。電解複合研磨による難加工材の形状創成。微細深穴の放電加工に関する研究。
制 御 シ ス テ ム	田 川 泰 敬 *2025.3 退職予定	機械システムのモデリングと制御技術をコアに、新しいデバイスの研究開発を行う。具体的には、1) 次世代型振動試験システム、2) 先端モーション・シミュレータ、3) 人間機械協調型パワーアシストシステム、などに関して基礎からデバイスの開発までを手がけている。また、伝達関数法による制御系設計手法の研究も行う。
生産システム工学	笹 原 弘 之	切削・研削加工を中心とした新加工技術開発（ロータリ切断、振動切削、航空宇宙材料の加工など）、溶融金属積層によるアディティブ・マニファクチャリング、環境にやさしい加工、機械加工のシミュレーション、摩擦攪拌パニングによる金属表面改質、機械加工面のサーフェスインテグリティ。

主 教 育 研 究 分 野	担 当 教 員 名	研 究 内 容
メカノフォトニクス	岩 見 健 太 郎	超並列電子ビーム源などのナノ・マイクロ電気機械システム (NEMS/MEMS) の開発と、高速電子線加工への応用、に関する研究を行う。コア技術として、半導体微細加工に基づくナノ加工技術や、金属ナノ構造と光の相互作用を取り扱うプラズモニクスについて学ぶ。
精 密 計 測 工 学	花 崎 逸 雄	ナノ・マイクロ系をはじめとする対象に現れる四力 (固体力学、流体力学、熱力学、機械力学) の融合・境界領域において、それらを横断的に捉える統計力学と力学系の理論的な切り口から物理現象の解明・予測・設計を行う。
機 械 解 析 代 数 学	※1 直 井 克 之	無限次元リー代数およびその q 変形の表現論
機 械 解 析 幾 何 学	※1 中 園 信 孝	可積分系とよばれる綺麗な性質を持った差分方程式についての研究を行う。(キーワード: パンルヴェ方程式、ソリトン方程式、戸田格子)
宇 宙 工 学	西 田 浩 之	先進的宇宙推進システム、宇宙往還機に関わる空気力学・飛行力学についての研究、具体的には、宇宙プラズマを利用した推進システムの数値流体シミュレーション、大迎角飛行中の宇宙往還機についての風洞実験、大気圧プラズマを用いた流体制御デバイスのシミュレーション・実験、など。
機械情報コミュニケーション学	※1 浅 井 優 一	人間の言語がそれを取り巻く社会文化、さらに自然環境を、どのように構築しているかについて、文化人類学・言語人類学・環境人類学の視座から研究。南太平洋のフィジー諸島でのフィールドワーク、フィジー語と伝統儀礼や神話的世界観の関係について研究。

電子情報工学専攻

主要教育研究分野	担当教員名	研究内容
物理応用工学専修 量子機能工学	生嶋健司	量子デバイスと高度センシング。特に、半導体や原子層マテリアルを利用した革新的量子デバイスの創出と赤外光・超音波を利用した画像化技術の開発。医療診断や非破壊検査への応用を目指す。
原子過程工学	鵜飼正敏 *2023.3退職予定	孤立系から凝縮系に至る物質相における、原子・分子・クラスターなどの電子励起・超励起・内殻励起した状態の関与する原子物理学的素過程に注目して研究することにより、物質へのエネルギー賦与とその緩和についての概要と詳細を解明する。
	畠山温	レーザー分光、レーザースピン偏極、レーザー冷却をベースとした原子・分子・光物理学の実験的研究。特に、原子-表面相互作用の基礎研究と、それに基づく原子の精密計測や量子制御への応用研究を行う。
半導体量子工学	前橋兼三	カーボンナノチューブやグラフェンといったナノカーボンの合成、および、それらを用いた新機能ナノ量子デバイスの作製、さらに、高感度バイオセンサーの開発を行っている。
量子ビーム工学	※1 箕田弘喜	生体高分子をはじめ様々なナノスケール材料が、ガス雰囲気下や溶液中などの実環境下で発現する機能と構造との関係を明らかにする。そのために、実環境でのナノ構造の高精度観察を可能にする電子顕微鏡装置や電子顕微鏡法の開発を行う。
量子電子工学	※1 宮地悟代	高機能な光量子の発生・制御、および利用による次代の光科学技術基盤の創出を目的とした先端レーザー開発とその応用に関する研究。特に、高強度な超短パルスレーザーによるナノプロセッシング技術基盤の確立を目指す。
高次機能工学	村山能宏	生物物理学、ソフトマター物理学の実験的研究。特に、生体高分子の力学特性やレオロジー特性、微生物の運動機構に着目した生体機能の解明および観測、解析技術の開発を行う。
	※1 吉野大輔	細胞の力学応答機構に関する実験的研究と細胞応答を応用した医療機器の開発研究。特に、循環器系疾患を対象に、血行力学刺激に対する細胞応答機構の解明と循環器医療デバイスの開発を行う。
機能性材料工学	※1 赤木友紀	化学・生物学・材料工学を基盤として、アンメットメディカルニーズに応えるスマートマテリアルの開発を行う。さらに、光や超音波等の物理エネルギーと組み合わせることで、効率・精度に優れた診断および治療の実現を目指している。
超伝導工学	山本明保	超伝導材料の物質科学・物性科学・応用に関する実験的研究。特に、高温超伝導材料を用いた新しい強力磁石の開発を行う。
有機電子工学	※1 嘉治寿彦	有機材料の電子物性・光物性に関する実験的研究。特に有機材料を半導体に用いた電子素子や太陽電池の研究と、そのための薄膜成長や結晶性、ナノ構造の制御の研究。
物理情報コミュニケーション学	※1 森祐希子 *2023.3退職予定	映像による情報コミュニケーションという観点から、演劇と映画を映像表現技法の発展・変化、観客との関係、作品の文化的背景と時代性等を軸に研究する。

主要教育研究分野	担当教員名	研究内容
電子応用工学専修 基礎電子工学 パワーエレクトロニクス 電子デバイス工学 電子機能集積工学 光エレクトロニクス 通信システム工学 知能システム工学	張 重 ※1	半導体量子ナノ構造やナノメカニカル構造の新規な物理現象やダイナミクスを解明し、単電子トランジスタ、量子情報処理デバイス、超高感度テラヘルツセンサーなど、次世代エレクトロニクスの開拓に向けた基礎物理とデバイス応用の研究を行う。
	鄧 明 聡	AI によるシステムの安全制御、故障診断および故障耐性制御、スマート材料によるアクチュエータとマイクロハンドなどの非線形制御に関する研究。
	白 檉 淳 一	量子計算機を利用した組み合わせ最適化手法による量子実験系での実験パラメータ探索と原子接合の作製、量子計算機を模擬したイジング計算機の実現と応用、脳のシナプスを模倣したニューロモルフィックデバイスの開発。
	久 保 若 奈	光制御を実現するプラズモニック・メタマテリアルを利用し、光電変換デバイスや光機能性素子を開発する研究を行う。ナノテクノロジー技術を駆使した無機ナノ構造体の作製、太陽電池や光学素子などの設計と評価を行う。
	上 野 智 雄	新材料・新プロセス技術の構築を中心とした、次世代超高集積デバイス基盤技術に関する研究。ラジカルを用いた薄膜低温形成、有機EL材料を用いた光電子デバイスの開発など。
	清 水 大 雅	半導体、磁性体、あるいは複合材料の研究、及び、それらの新奇光エレクトロニクス素子・磁気光学素子・ガスセンサへの応用に関する研究。材料の特性評価、素子の設計・作製・評価を行う。
	高 木 康 博	立体ディスプレイ、超解像などに関する光情報処理システム構成法の研究。
	田 中 洋 介	多機能高速光情報処理、高機能光計測システムの構築、要素デバイス、並びにデータ処理技術に関する研究。
	梅 林 健 太	無線通信ネットワーク、高効率・高信頼な無線通信のための信号処理・リソース制御、複数アンテナを用いた無線通信用高度信号処理、コグニティブ無線技術、物理レイヤセキュリティ、テラヘルツ・ナノデバイス用無線通信の研究開発。
	鈴木 健 仁	テラヘルツ波帯アンテナ、テラヘルツ光極限物質、テラヘルツメタマテリアル、超高感度テラヘルツ偏光計測、テラヘルツ波超高速無線通信システム、テラヘルツ応用システムの研究。
	藤 吉 邦 洋 ※1	VLSI(超大規模集積回路)設計に応用される組合せアルゴリズム論、及びVLSI設計用CADの開発。特にメタグリッド方式の基礎理論とその応用開発研究。

主要教育研究分野	担当教員名	研究内 容
電 磁 波 工 学	有 馬 卓 司	計算機を用いた数値電磁解析に関する研究。効率的な数値電磁解析手法の開発に関する研究。電磁波の新媒質の開発に関する研究。特殊媒質中の電磁波の振る舞いに関する研究。
医 用 情 報 工 学	清 水 昭 伸	多次元信号処理、人工知能、最適化理論、数理統計に基づく医用画像処理、パターン認識に関する研究。また、これらの研究成果を応用した医用画像の診断支援システムの開発と評価。
	※1 瀧 山 健	運動学習・運動制御の脳内メカニズムの解明と、運動能力が向上するための効果的なトレーニング方法の提案。脳を模擬した数理モデルの構築、ヒトを対象とした行動実験を主な研究手法とし、脳波計を用いた脳活動計測や機械学習も今後研究手法として取り入れていく。
画 像 情 報 工 学	田 中 聡 久	生体信号情報学（信号処理・機械学習・数理工学に基づくブレイン・マシン・インタフェース、脳神経科学、認知科学、医学のための生体情報処理、AI技術）。また、画像、音声・音響、通信、生体への応用。
	※1 矢 田 部 浩 平	音声や音楽など、音響信号の計測・解析・処理に関する研究。音響信号処理を中心に、音に関する幅広いトピックを扱う。
知能・情報工学専修 アルゴリズム工学	金 子 敬 一	プログラミング言語処理系の耐故障化や高速化、相互結合網の位相構造の設計や経路選択算法の開発、プログラムの部分計算および並列実行、マルチメディア教育などに関する研究。
	宮 代 隆 平	数理計画、離散最適化、アルゴリズム、数理工学、実社会に現れる最適化問題の数理モデリングおよび最適化。
先端基盤ソフトウェア学	並 木 美太郎	OS・言語処理系・ウインドウシステムなどのシステムソフトウェア、組込みシステム、高性能計算機システム、分散処理、ネットワークアーキテクチャ、計算機システム省電力化、情報システム。
	山 田 浩 史	オペレーティングシステム、仮想化技術、並列分散処理システム、システムソフトウェアに軸足を置いたクラウドコンピューティングおよびディペンダブルコンピューティング。
人 工 知 能 工 学	※1 藤 田 桂 英	知的エージェント、マルチエージェントシステム、自然言語処理、データマイニング、複雑ネットワーク解析、ナレッジマネジメントを中心とした知能情報処理および人工知能に関する研究分野。
	※1 渡 辺 峻	情報理論の観点による情報通信や情報セキュリティ技術に関する理論的な研究。
コンピュータシステム工学	※1 中 山 悠	モバイル、IoT、空間情報など、情報ネットワークとアプリケーションに関する技術および、それらを活用する仕組みに関する研究。
	岩 崎 裕 江	SDGsの達成に向けた働く場所にこだわらないロケフリーを実現するためのAI処理や映像符号化処理を実現可能な映像処理プロセッシングアーキテクチャの研究開発。

主要教育研究分野	担当教員名	研究内容
システム情報学	斎藤隆文 *2025.3退職予定	コンピュータグラフィックス、可視化、映像処理、形状処理に関する研究。特に、情報提示のための画像生成処理、美的な曲線・曲面形状の生成制御など。
	田中雄一	信号情報処理、機械学習、映像処理・コンピュータビジョン、生体情報処理などの理論・アルゴリズムおよび工学・産業への応用に関する研究。
認識制御工学	近藤敏之	生物の環境認知・適応・運動学習メカニズムの構成論的解明とその工学的応用に関する研究。自律分散システム、ロボティクス、ブレイン・コンピュータ・インタフェース、リハビリ医工学。
	清水郁子	コンピュータビジョン、ロボットビジョン、3次元画像処理、画像処理技術を応用した情報支援システムなどに関する研究。
情報ネットワーク工学	山井成良	インターネットアーキテクチャ、ネットワークセキュリティなど、インターネットを含む大規模（分散）システムの構成・管理・運用・評価に必要な技術の研究。
	中條拓伯	計算機アーキテクチャ、並列処理、高性能プロセッサ、集積回路設計、システム設計、ハイパフォーマンスコンピューティング。
知能メディア処理工学	堀田政二 ※1	画像やビデオ等のマルチメディアコンテンツの検索や認識に関する研究。クラスタリングを利用した大量のデータの効率的なブラウジング手法に関する研究。
仮想環境創造工学	藤田欣也	オフィス作業者の集中度推定、テレワーク支援、スマートな情報提供システム、手指を用いたVR作業など、ヒューマンインタフェースやバーチャルリアリティに関する研究。
自然言語情報学	篠原和子 *2024.3退職予定 ※1	認知言語学、メタファー理論（概念メタファー、イメージメタファー、メタファーの身体的基盤）、空間認知と言語。
	宇野良子 ※1	自然言語のダイナミズムの認知言語学的分析（時制・様相・新造語・擬態語等）と、人工言語を用いた進化言語学的実験を通じた、文法による視点追跡・共有の機構の研究。
数理情報学	原伸生 ※1	正標数の代数幾何学と可換代数。とくに、正標数に固有のフロベニウス射の振る舞いを用いた代数多様体とその特異点の研究。
	村田実貴生 ※1	微分方程式の離散化と超離散化およびその解析。超離散化の手法による可積分セル・オートマトンの研究。パウルヴェ方程式とその拡張の研究。

工学府連携分野

本学工学府に、優れた研究実績を有する外部の研究所等との連携により大学院教育の活性化を図ることを目的として設置された教育研究分野である。連携分野を志望する者は、事前に各専攻長の指示を受けること。

専攻	教育研究分野	担当教員	教育研究内容
生命工学専攻	ナノ細胞工学 (連携研究機関：国立研究開発法人産業技術総合研究所)	中村 史 ^{※1} 金 賢 徹 ^{※1} 山 岸 彩 奈	微細加工技術により作製した新規ナノ・マイクロ材料やナノプローブ計測技術を駆使し、生きた細胞を解析・操作する「ナノ細胞工学」という新しい科学技術体系の確立を目指す。開発した技術によりがん細胞や免疫細胞、iPS細胞等の機能を解明し、その情報を元にゲノム治療、リキッドバイオプシー等の技術開発に取り組み医工学技術の発展に貢献する。これら最先端の研究開発を通じて生命科学に関する教育研究を行う。
応用化学専攻	非平衡プロセス工学 (連携研究機関：(株)三菱ケミカルホールディングス)	垣 内 博 行 ^{※1} 野 口 直 樹 ^{※1} 日 高 秀 人 ^{※1}	現在行われている工業的な化学製品の製造方法は、ほとんどは、一定の運転条件下で連続的に行われている。これに対して、最近、運転条件の変動する、いわゆる「非平衡プロセス」を用いた製造が行われるようになってきた。このような背景を踏まえ、非定常・非平衡な製造方法の理論と実際について教育研究を行う。
機械システム工学専攻	交通輸送システム工学 (連携研究機関：(公財)鉄道総合技術研究所)	瀧 上 唯 夫 ^{※1} 高 見 創 ^{※1} 半 田 和 行 ^{※1}	次世代の高速鉄道を開発するために、高速化に対応した車体設計法、軽量化技術、安全性の向上技術を中心とした高度な解析手法や設計手法について教育研究を行う。さらには交通輸送システムとしての社会的な諸問題の解析評価について教育研究を行う。
	宇宙航空工学 (連携研究機関：国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構)	山 根 敬 ^{※1} 青 山 剛 史 ^{※1} 渡 辺 安 ^{※1} 平 野 義 鎮 ^{※1}	航空機、宇宙機開発にかかわる航空推進工学、高速空気力学、空力／空力音響学及び回転翼、複合材料・構造工学の研究を行う。航空推進工学では、航空エンジンシステムシミュレーション技術、高温タービンの耐熱・冷却技術に関する研究を行う。高速空気力学では、超音速、極超音速流れ、特に、エンジンインテーク、極超音速境界層の制御法に関する研究を行う。空力／空力音響学及び回転翼では、航空機の非定常CFD、ロケットの非線形音響／音響透過、高速ヘリコプタに関する研究を行う。複合材料・構造工学では航空宇宙機の複合材料・構造の損傷、最適設計に関する研究を行う。
	交通安全工学 (連携研究機関：(独)自動車技術総合機構、交通安全環境研究所)	関 根 道 昭 ^{※1}	主に道路交通の安全を高め、より安心な社会環境基盤を構築し、車両の安全を保証・検証・審査する、という公共性の高い事業が展開されている連携先において、本学における共生科学技術の基盤的研究を高度福祉社会の発展のために応用することを目指した教育研究を推進する。
	ヒューマノイド工学 (連携研究機関：国立研究開発法人産業技術総合研究所)	鮎 澤 光 ^{※1} 山野 夏 樹 ^{※1} 佐 川 立 昌 ^{※1}	ヒューマノイドロボットによる物体操作や搬送作業のための効率的な障害物回避動作計画アルゴリズム、動的バランスを考慮した全身運動制御手法、BCI（脳・コンピュータインタフェース）を用いたロボットの遠隔操作の研究。

専攻	教育研究分野	担当教員	教育研究内容
機械システム工学専攻	自動車予防安全工学 (連携研究機関：(一財)日本自動車研究所)	内田 信行 ^{※1} 今 長 久 ^{※1}	自動車交通事故は、人的要因・道路環境要因・車両性能要因など、複数の要因が関与して発生する。そのため、交通事故を防ぐためには、要因間連鎖の特徴を明らかにし、事故発生メカニズムに基づく予防安全対策が必要である。事故背景要因把握のためのドライブレコーダデータ収集および分析の手法、事故発生メカニズム仮説を検証するための実験等について、特にヒューマンエラー対策を主眼とした研究を推進する。
電子情報工学専攻	先端電子情報システム工学 (連携研究機関：(株)日立製作所中央研究所)	安藤 正彦 ^{※1} 李 英根 ^{※1}	情報技術の高度化に応えるため、演算・記録・伝達の全ての面で絶えざる革新が求められている。その課題は、量的な面(高速化・大容量化・低消費電力化・低雑音化)と質的な面(知能化・複合化・システム化・外部適合化)に分けられる。これらを同時に解くキーテクノロジーとして、寸法がナノメートルの系を対象とした技術が非常に重要になってきた。このような背景を踏まえ、微細系を対象とした情報解析技術や、情報機能制御などの教育研究を行う。
	情報通信工学 (連携研究機関：国立研究開発法人情報通信研究機構)	辻 宏之 ^{※1} 渡 辺 聡一 ^{※1} 広 瀬 信光 ^{※1}	次世代の情報通信の幅広い応用分野及びそのキーテクノロジーを支えるために、ワイヤレス通信用高周波デバイス、通信方式、通信環境および電磁波計測技術などの基盤研究に関する教育研究を行う。
	バイオメディカルエレクトロニクス (連携研究機関：国立研究開発法人理化学研究所)	横田 秀夫 ^{※1} 北 城 圭一 ^{※1} 吉 澤 信 ^{※1} 村 山 正宜 ^{※1}	生体医工学にかかわる電子工学(計測、信号処理、インタフェース、イメージング、シミュレーション、メカトロニクス等)に関する教育研究をおこなう。
	革新知能基盤 (連携研究機関：国立研究開発法人理化学研究所)	大 武 美保子 ^{※1} Qibin Zhao ^{※1} 荒 井 ひろみ ^{※1}	知能情報工学、人工知能に関する基礎研究、応用研究(離散最適化、探索と並列計算、テンソル学習、近似ベイズ推論、認知行動支援技術)に関する研究教育を実施する。
	都市空間情報学 (連携研究機関：国立研究開発法人産業技術総合研究所)	幸 島 明 男 ^{※1}	センサー情報解析、機械学習、社会シミュレーションの数理解析、サービス設計と社会実装などに関する研究。都市空間と人のセンシングにより得られる情報を、対象のモデルを用いた機械学習により解析・理解し、また実センサーデータを用いた社会シミュレーションによる可能世界の探索を実行することによって、都市空間における「都市の利便性・安全性」と「人の快適さと安心」を実現する都市空間における情報学の研究を行う。
	知能データ工学 (連携研究機関名：(株)日立製作所中央研究所)	守 屋 俊 夫 ^{※1}	Internet-of-Things (IoT) 技術により日々収録されるビッグデータを知的に活用するための人工知能技術に関する教育研究を行う。

2022年度10月入学

東京農工大学大学院工学府（博士後期課程）

入 学 志 願 票

志望 専攻		専攻	志望 専修		専修	受験 番号	※ D C -
志望する 指導教員名				希望する 研究題目			
ふりがな				男・女	勤務先又は 在籍大学名		
氏 名					本 籍 (又は国籍)	都・道・府・県 (外国人は国籍)	
生年月日	年 月 日 生						
現住所	(〒 -) (様方)						
	自宅電話 () - 携帯電話 () - e-mail						
連絡場所	(〒 -) (様方)						
	電話 () - 自宅・呼出 ()						
履 歴 書	学 歴 (高等学校又は 高等専門学校卒 業から記入する こと。)	年 月 (西暦)	事 項				
	職 歴 (大学等研究生 等としての在学 歴がある場合 は、本欄に記入 すること。)						
備 考 (賞罰、休学期間 等を記載)							
私費・国費留学の別 (外国人のみ記入)		私費・日本政府国費・外国政府派遣			出願資格区分		※

注1. ※欄には記入しないこと。 注2. 黒又は青のボールペンで記入すること。
 注3. 志望する指導予定教員の捺印（承認印）が無い場合は出願不可。
 注4. 国際専修を志望するものは、専修名を「国際専修」と記載すること。
 注5. 工学府連携分野（p.23~24）を志望するものは、志望専修欄に教育研究分野名を記入すること。

2022年度10月入学

東京農工大学大学院工学府
(博士後期課程)

写 真 票

写真貼付欄 写真は、上半身脱帽正面向きで3カ月以内に撮影したもの (4cm×3cm)		
受験番号	※ D C ー 番	
志望専攻	専攻	
志望専修	専修	
ふりがな		
氏名		
生年月日	年 月 日生	男・女

2022年度10月入学			
東京農工大学大学院工学府 (博士後期課程)			
受 験 票			
受験番号	※	D C ー 番	
志望専攻		専攻	
志望専修		専修	
ふりがな			
氏名			
生年月日	年 月 日生	男・女	
(注 意) 1. 本票は、学力試験の際に机上に置いて監督者に見えるようにすること。 2. 合格者には、合格発表当日、本票と引替えに合格通知書等を交付するため、受験後も大切に保管しておくこと。 3. ※印欄は記入しないこと。			

切りはなさないこと

出欠確認※	出席・欠席
-------	-------

注1. ※印欄は記入しないこと。

注2. 黒又は青のボールペンで記入すること。

【在学中の者は提出不要】
※詳しくはP3. 選抜方法 E 参照

修 士 論 文 の 概 要

受験 番号	※ D C -	志望専攻	専攻	氏 名	
		志望専修	専修		
修 士 論 文 題 目					
修士論文の概要					

注) 修士修了者は修士論文の概要を、本様式に2,000字（英語の場合は500 words）以内に具体的、かつ簡明に作成すること。
なお、その際に、必要に応じて図、表、式等を用いても良い。また、ワープロ使用のときは本様式に直接または別紙用紙（A 4 判）に本様式にならない作成すること。
※印の欄には、記入しないこと。
黒又は青のボールペンで記入すること。

東京農工大学大学院工学府博士後期課程

研究計画の概要

注) 本様式に2,000字以内に具体的、かつ簡明に作成すること。なお、ワープロ使用のときは本様式直接または別紙用紙（A 4 版）に本様式にならない作成すること。
なお、社会人にとっては、希望する研究実施形態についても記載すること。
※印は、記入しないこと。

【本学出身者、本学在学者は不要】
(入学資格審査申請者は申請時に提出)

志 望 理 由 書

志 望 専 攻	専 攻	氏 名		受験番号	※ D C -
志 望 専 修	専 修			受付番号	※

※の欄は、記入不要。字数は1,000字程度。本様式をワープロソフトで作成可。

別紙様式（1）

出願資格認定結果	※ 合・不合
----------	--------

※
認定審査責任者氏名 _____ ㊞

2022年度10月入学
東京農工大学大学院工学府博士後期課程入学試験出願資格認定申請書

志望専攻	専攻	志望専修	専修	受験番号	※ DC —
ふりがな 氏 名				男・女	写真貼付欄 写真は上半身脱帽正 面向きで3ヶ月以内 に撮影したもの (4 cm × 3 cm)
生年月日 (年 齢)	年 月 日 (歳)	現 職			
現 住 所	TEL () — e-mail				
学 歴					
年 月 日	事 項				
職 歴 (研究・開発等の業務内容がわかるように詳しく記入して下さい)					
年 月 日	事 項				
学 会 及 び 社 会 に お け る 活 動 状 況					
年 月 日	事 項				

(注) ワープロ使用のときは本様式に直接または別紙用紙（A 4判）に本様式にならない作成すること。
※印の欄には、記入しないこと。

研 究 業 績 一 覧

氏 名

志望専攻	専攻	志望専修	専修	受験番号	※ DC	-
学術論文、研究発表、報告、特許等の名称		発 行 又 は 発表の年月日	発 行 所、 発 表 雑 誌 等 又 は 発 表 学 会 等 の 名 称		備 考（共著者又は 共 同 発 表 者 名）	

注) 年代順に記載のこと。学術論文等は、別刷又は写を添付すること。なお、ワープロ使用のときは本様式に直接または別紙用紙（A 4 判）に本様式にならい作成すること。
※印の欄には、記入しないこと。

入 学 承 諾 書

入学者氏名

このたび、上記の者が貴大学大学院工学府博士後期課程に在職のまま入学することを承諾します。

年 月 日

東京農工大学大学院工学府長 殿

住 所

勤 務 先

役 職 名

氏 名

印

入学検定料納付確認票

志 望 専 攻	専 攻
志 望 専 修	専 修
受 験 番 号	※ DC —

(志望専攻および志望専修は本人が記入すること)

「振替払込受付証明書
〔大学提出用〕」を貼り付
けること。

(注意)

1. 郵便局・ゆうちょ銀行の受付
局日附印がないものは無効。
2. 振替払込受付証明書の所定欄
に志願者住所・氏名を必ず記
入のこと。
3. 振替払込請求書兼受領証は大
切に保管し、ここに添付しな
いこと。
4. 納入された入学検定料は、い
かなる理由があっても払い戻
さない。

入学検定料払込用紙〔工学府（博士後期課程）用〕

- ・本払込用紙に、志願者（ご依頼人）の住所・氏名（フリガナ）を記入のうえ、支払期限までに郵便局・ゆうちょ銀行窓口でお支払いください。
- ・右端の「振替払込受付証明書」を、入学検定料納付確認票に貼り付けて提出してください。（受付局日附印のないものは無効）
- ・「振替払込請求書兼受領証」は受領証書となります。改めて本学から受領証書は発行いたしませんので、大切に保管してください。
- ・本学の学府・研究科から引き続き本課程に進学する者及び入学後も国費外国人留学生となる者は納入不要となります。

切 り 取 っ て ご 使 用 く だ さ い

00		払 込 取 扱 票									
		口座記号番号									
001208		463426									
加入者名		国立大学法人 東京農工大学									
※		2022年度 入 学 検 定 料 東京農工大学大学院 工学府（博士後期課程）									
通信欄		必ず窓口で払い込み、ATM（現金自動預払機）は利用しないでください。 ※本学の学府・研究科から引き続き本課程に進学する者及び入学後も国費外国人留学生となる者は納入不要となります。									
ご依頼人		志願者住所（郵便番号） ※ 志願者氏名（フリガナ） （電話番号 - -）様									
		裏面の注意事項をお読みください。（ゆうちょ銀行）（承認番号東第44194号） これより下部には何も記入しないでください。									

各票の※印欄は、ご依頼人において記載してください。

記載事項を訂正した場合はその箇所に訂正印を押してください

振替払込請求書兼受領証									
口座記号番号									
001208									
463426									
加入者名									
国立大学法人 東京農工大学									
金額									
千 百 十 万 千 百 十 円									
※ 300000									
志願者氏名（フリガナ） ※									
様									
料 金									
（消費税込み） 日 附 印									
円									
備考									

この受領証は、大切に保管してください。

振替払込受付証明書（お客さま用） （ご依頼人⇨郵便局・ゆうちょ銀行⇨ご依頼人） 〔大学提出用〕									
口座記号番号									
00120-8-463426									
加入者名									
国立大学法人 東京農工大学									
金 額									
千 百 十 万 千 百 十 円									
300000									
ご依頼人住所氏名									
※（志願者住所氏名）									
2022年度 入 学 検 定 料 工 学 府 （博士後期課程）									
日附印のないものは無効									
（承認番号東証第1247号）									

切り取らないでお出しください

〔工学府（博士後期課程）用〕

① 入学検定料は、必ずこの払込用紙を使用して郵便局・ゆうちょ銀行で払い込んでください。

② 払込の際に日附印を押印した「振替払込受付証明書」を受け取り、入学検定料納付確認票の指定欄に貼り付けて提出してください。

(注意)

志願者住所、氏名欄に記入漏れがないか、郵便局・ゆうちょ銀行の日附印が漏れていないか、確認の上提出してください。

(記入漏れ、日附印のないものは無効となります。)

(ご注意)

・この用紙は、機械で処理しますので、金額を記入する際は、枠内にはっきりと記入してください。また、本票を汚したり、折り曲げたりしないでください。

・この用紙は、ゆうちょ銀行又は郵便局の払込機能付きATMでもご利用いただけます。

・この払込書を、ゆうちょ銀行又は郵便局の渉外員にお預けになるときは、引換えに預り証を必ずお受け取りください。

・この用紙による、払込料金は、ご依頼様が負担することとなります。

・ご依頼様からご提出いただきました払込書に記載されたおところ、おなまえ等は、加入者様に通知されます。

・この受領証は、払込みの証拠となるものですから大切に保管してください。

収 入 印 紙
3 万円以上
貼 付

印

この場所には、何も記載しないでください。

宛 名 票

- ・志望専攻・専修を記入し、郵便番号、住所及び氏名を3ヶ所に記入すること。
- ・住所及び氏名は正確に記入すること。また、出願後、住所を変更した場合は、すみやかに届け出ること。
- ・※印欄は記入しないこと。

宛 名 票	
志 望 専 攻	
志 望 専 修	
合格通知用 ここからきりはなして提出すること 住所 様 受験番号 ※ DC - 住所 様 受験番号 ※ DC - 住所 様 受験番号 ※ DC -	
入学手続書類送付用 住所 様 受験番号 ※ DC -	
予 備 用 住所 様 受験番号 ※ DC -	